

CAMD 報告会

(Center for Development of Advanced Medicine for Dementia)

アルツハイマー病の血液バイオマーカー： 研究の展開と実用化への展望

バイオマーカー開発研究部

中村 昭範 部長

2021年1月14日(木) 16時00分～

Web 配信により開催します。

参加方法は、メール及び WebOffice の回覧で事前にお知らせします。

アルツハイマー病(AD)の効果的な治療法や予防法を開発していく上で、低侵襲で大規模集団にも適用可能な血液バイオマーカーが重要な役割を果たすと考えられるが、特に最近我々が開発した血液 A β バイオマーカーは、その高い精度から様々な場面での実用化が期待されている。本報告会では、血液バイオマーカー研究進展の現状について概説し、実用化への展望について、1) 治療薬開発におけるスクリーニング利用、2) 認知症の発症予防研究やリスク管理への貢献、3) 認知症診療における補助的情報としての有用性（薬事承認、保険収載への展望）、4) 他の血液バイオマーカーと組み合わせた統合的層別化研究、といった観点から報告する。また、最近我々が取り組んでいる、AMED 支援事業の「血液バイオマーカーによる認知症の統合的層別化システムの開発：BATON project（代表 中村昭範）」や、「血液バイオマーカーを用いた超早期アルツハイマー病コホートの構築(代表 新飯田俊平)」について、その概要を紹介する。